



長良川9.12豪雨災害 50年シンポジウム 今、災害の危機が 訪れたら、どう動く？

50年前の1976年9月12日、台風17号の接近に伴う集中豪雨は、岐阜県南部を濁流が襲い、7万棟以上の家屋が半壊や浸水の被害に遭った岐阜県史上最悪の豪雨災害として記録されています。

あれから50年、県史に類を見ないこの水害を風化させず、未来への教訓とするため「今、災害の危機が訪れたら、どう動く」を自分事として考えるシンポジウムを行います。

参加無料
定員／400名
(先着順・事前申込み)

2026年

9月12日(土)

時間 | 13:30～16:00 (開場／13:00)

会場 | じゅうろくプラザ 2Fホール (岐阜市文化産業交流センター)
JR岐阜駅スグ

プログラム

13:30 | 開会挨拶

岐阜市長 柴橋 正直 氏 安八町長 岡田 立 氏

13:35 | プロローグ ～9.12災害を振り返る～

～災害の概要～ 木曽川上流河川事務所長 貴家 尚哉

～当時の体験談①～ 元岐阜市水防協会会長 戸本 敏夫 氏

～当時の体験談②～ 元安八町立結小学校校長 金森 透 氏

14:10 | 講演 名古屋大学名誉教授 辻本 哲郎 氏

水害は「自然現象」か、「社会現象」か

～9.12豪雨災害から考える、私たちの判断と選択～

14:45 | 防災教育の取り組み紹介 羽島市立桑原学園 児童

15:10 | パネルディスカッション

今、9.12豪雨災害の危機が訪れたら、私たちはどう動く？

《登壇パネリスト》

岐阜市長、大垣市長、羽島市長、安八町長、

NHK岐阜放送局チーフアナウンサー、

岐阜県 県土整備部河川課長、岐阜地方気象台長、

木曽川上流河川事務所長

《コーディネーター》

名古屋大学名誉教授 辻本 哲郎 氏

本シンポジウムは、公益社団法人土木学会 継続教育(CPD)と一般社団法人全国土木施工管理技士会連合会の継続学習制度(CPDS)のプログラムとして認定されています。



申込方法

専用申込みフォーム(二次元コード)から申込みできます。

また、電話での申込み受け付けも可能です。

応募締切／2026年8月31日(月)



右記二次元コードから
お申込みください。



058-264-1158
「9.12シンポジウム係」

【問】「9.12シンポジウム係」(委託先)岐阜新聞社営業局
TEL058-264-1158(平日9:00～17:00)

関連イベント

リレーパネル展

長良川沿川の各市町でパネル展を開催します。
詳細は、随時WEBページで更新します。



木曽川上流
河川事務所HP

主催 | 木曽川水系流域治水協議会 共催 | 木曽川上流河川事務所、木曽川下流河川事務所
後援 | 公益社団法人 土木学会中部支部、一般社団法人 中部地域づくり協会